

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第9回)

**PROCEEDINGS OF THE 9th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN
(1985)**

**国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE**

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 9th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1985

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, 142

第9回

目 次

あいさつ	小山 弘 志…………… 3頁
写真集	
研究発表	
伊豆箱根の本地の形成 —東アジアの類話からの展望—	小 島 瓊 禮……………11頁
説経正本といわゆる口承文学	Susan Matisoff ……23頁
漱石の虚像と実像	Yoko McClain……………33頁
プロ文革後の中国における日本文学研究の動向	莫 邦 富……………44頁
近代文学における「狂」 —石川淳と大田蜀山人—	狩 野 啓 子……………58頁
公開講演	
ロマンとしての落窪物語	Frits Vos ……70頁
鶴峯戊申『語学新書』とその背景	松 村 明……………89頁
記録	
日程および研究集会の経過……………	106頁
参加者名簿……………	108頁
国際日本文学研究集会委員名簿……………	112頁

あ い さ つ

小 山 弘 志

国際日本文学研究集会ももはや9回になりました。この機関が創設されたのは昭和47年でございますが、設備が整って、皆さんに御利用いただけるようになりましたのは昭和52年で、その時に第1回の研究集会を開きました。今年が第9回ということは、それからもう9年経ったということでございます。

すでに御承知の方も多いと思いますが、この機会に国文学研究資料館についてごく簡単に申し上げることにいたします。

この資料館は、江戸時代の末までの日本文学に関する文献、即ち版本・写本の類でございますが、それらをマイクロフィルムで集めて保存するというのを大きな仕事としておりまして、これだけの年数が経ちましたので、もはや6万点を超える文献のマイクロフィルムを持つに至っております。また毎年発表されております研究論文の類、これらを整理してその目録を「国文学年鑑」という形で毎年刊行しております。そのもとになる雑誌・紀要の類、これらも極力揃えるように努力いたしまして、現在では「年鑑」に載っているものの95パーセント以上は当館にその現物を収蔵しております。

このようなマイクロフィルムであるとか、或いは研究論文の載っている雑誌の類というものは、広く皆さんに御利用いただいております。ただ、マイクロフィルムのほうは、原本所蔵者との関係がございますので、コピーサービスのできないものもございますが、それらも閲覧室で御覧いただくことは可能でございます。

さきほど申しましたように、10年以上経ちただけに集積量が増えてまいりました。マイクロ資料におきましても、また雑誌論文におきましても、年々利用度が高まってきております。どうぞ御利用いただきたいと存じます。

これに関連して、当館では整理などの作業にコンピュータを利用するということを当初から心がけておりまして、近い将来にはそのオンライン検索ということもできるようにしたいと努力を続けております。すなわち、収集したマイクロ資料はこれをコンピュータに入力し、これらを一年ごとにまとめて打ち出し、毎年1冊ずつ「目録」を出しているのですが、たとえば源氏物語は、某図書館のもの、或いは某文庫のものなどが毎年それぞれ入ってきております、その源氏物語なら源氏物語のマイクロフィルムが現在当館にどれだけあるかということは、目録を何冊も引くよりはコンピュータで検索するほうが便利でございます。このシステムはほぼ完成しまして、ただいま閲覧室で試験的に御利用いただいておりますが、これを、ここにおいでにならないで、たとえば仙台であるとか福岡であるとか、遠く離れた所からどういうものがあるかということ、さっと見ることができるようになりたい、そういうオンライン利用ができるようにしたいと考えているのでございます。口では簡単に申しますけれど、実現にはいろいろむづかしい問題がございます。それを克服しながら、最初は完全なものではなくても、徐々に拡充して行くよう努力してまいりたいと思っております。

以上のような当館の事業は、何といたっても文献を所蔵していらっしゃる方の御理解御協力によってはじめて成立つものでございます。そしてまた、その作業は私ども館員だけではとてもできないので、各地の研究者に文献調査員という形で御協力をお願いいたしまして、それらの方々の手によって文献資料がここに収集されてきているのでございます。また紀要・雑誌の類も多くの場合、それぞれの刊行者から御寄贈をいただいているのであります。ひとえにそれは多くの研究者に利用していただくためでありまして、そういう趣旨を御理解いただいて今申しましたような多くの方々の御協力をいただいているのでございます。したがって私どもの事業は、皆様、研究者全体のためでございますので、どうぞ大いに当館を利用していただきたいと存じます。

さて、今回の集会、さきほど申しましたように9回になりました。これも

最初の頃はいろいろと関係者の苦勞があつたと思うのですが、ともかく順調にここまでまいりました。今は主として日本にたまたまおいでになっている外国の研究者がおのずから参加者・発表者になっておりますけれども、この会議のためにそれぞれのお国からおいでいただくというようなことができればより良いのでございます。ただ、私どもで旅費を用意してお招きするということできませんので、その点今後も努力してまいりたいと思いますが、今のところはこのような形で、日本人の学者と、たまたまこの時期に日本においでになっている外国の日本文学研究者との交流をはかってゆくことにしたいと存じます。

なお、かねてより私どもの感じておりますことですが、御応募いただいた方を主にしておりますものですから、必ずしも限定したテーマというものなしでやってきておりますので、とりどりの研究発表をうかがうようになっております。できることならば、今年はこういうテーマで、ということもあってよいのではないかと考えているのですけれども、さきほど申しました事情などもあって、一つのテーマに絞るということはなかなかむづかしいことではございます。しかし、可能な限りそういう方向も考えて今後の運営をしていきたいと存じております。

今日これから四つの御発表があり、それからまた明日二つある予定でございましたところ、ポッフムのヘルメルさんはやむを得ない事情でおいでになれなくなりました。これらの御発表のあと、明日の午後には公開講演を予定しております。プログラムにございますように、ライデン大学名誉教授のフリッツ・フォス先生、先生は10月の初めから当館に客員教授としておいでになっておられます。それからもうお一方、東大の名誉教授である松村明先生、御承知の方も多いと思いますが、松村先生は国語学者であり、とりわけ江戸から明治へかけての国語について造詣の深い方で、したがってオランダ語と日本語との関係について高い識見をお持ちでございます。フォス先生がオランダの方であるということもあって、特に松村先生にお願いしてかような公

開講演会といたしました。

以上、このようなプログラムを作るにあたりましては、私ども館内の者だけでなく、当館にこのための委員会が設けてございまして、何人か館外の方に委員をお願いしております。現在は池田重青山学院大学教授が委員長でそのもとで案を作って実行しております。申し遅れましたけれども、文献の収集とかその他の仕事に関しましても、その運営についてはそれぞれの委員会を設けて館外の方々の御助力を得ながら進めてきている次第でございます。

今日これから引き続いて四つの研究発表がございますし、また明日も研究発表と公開講演がございます。この集会在りあるものになりますよう念じまして、ご挨拶といたします。

発行

昭和61年3月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 785-7131 (代)